

TOMODACHI サントリー福島未来ミュージックプログラム2016 報告

ふたば未来学園高等学校吹奏楽部顧問：今野貴文



このプログラムは本校吹奏楽部2年生を対象に平成28年2月から10月までの期間に実施されました。

このプログラムの目的は、

- ・音楽やその理論、および作曲に対する学びを深める。
- ・グローバルな視野を身に付け、グローバルな人材として、また日本の代表としての自信を身につける機会を提供する。
- ・東北在住者として、東日本大震災以降の東北地方への支援に対する感謝を米国の人々に伝える。

といったもので、

- ・サントリー ホールディングス
- ・米日カウンシルジャパン
- ・ニューヨークフィルハーモニック

のご支援をいただき、福島大学名誉教授の嶋津武仁氏の音楽指導をいただきながら進めるプログラムです。

プログラムの内容は、楽器の演奏や、音楽教育、作曲について学ぶ本校吹奏楽部の生徒に、音楽の技術を高めてもらうだけでなく、他の音楽様式や作曲、音楽理論、また自分の専門以

外の楽器について学ぶ機会を提供するプログラムです。プログラムに参加する高校生はまず日本で研修を受け、その後2016年8月16日から24日の1週間、ニューヨークでのワークショップに参加しました。

○Kick off イベント

プログラム全体のスタートに際してのイベントが2月28日に開催されました。サントリー・ホールディングスと米日カウンシルジャパンの役員の皆様にご出席いただき、各方面より激励のお言葉をいただきました。ニューヨーク・フィルハーモニック教育部門副社長のT. Wiprud氏からは映像によるご挨拶をいただきました。数曲演奏披露をし、今後のプログラムの説明を受けて生徒のそれぞれの意見と意気込みについてワークショップにて確認し、早速、嶋津名誉教授より「楽譜の書き方」を基に音楽理論の基礎についてご指導をいただきました。





○日本でのワークショップ（音楽講座）は以下の日程で行われました。

- 第1回 1月25日（月） 楽曲の制作法（オリエンテーション）
- 第2回 2月28日（日） 音楽理論、楽譜の書き方
- 第3回 3月15日（火） 音楽理論、和声、演奏法
- 第4回 4月21日（木） 音楽理論の応用、アレンジの基礎
- 第5回 5月23日（月） 音楽理論の応用、アレンジの応用
- 第6回 6月20日（月） 楽曲の制作と演奏法1
- 第7回 7月20日（水） 楽曲の制作と演奏法2
- 第8回 8月9日（火） 発表の方法、準備
- 第9回 8月12日（金） 発表の方法、準備

全9回の講座では、嶋津先生より楽譜の基礎からニューヨークで演奏する「ふるさと」の変奏曲の完成まで丁寧にご指導いただきました。





○ニューヨーク研修への壮行会

7月20日には広野町長の遠藤智様、サントリー・ホールディングス役員の皆様にご出席いただき、ニューヨーク研修への壮行会を開催していただきました。

オープニングに、今年度の吹奏楽コンクールで演奏し県大会へ進出した曲を演奏。その後、1年生も交えて「ふるさと」の現在の仕上がり状況について報告し演奏いたしました。



●いよいよ吹奏楽部 2 年生は 8 月の 16 日～24 日はアメリカのニューヨークに渡り、リンカンセンターでニューヨークフィルハーモニックの音楽研修プログラムに参加させていただきました。

○ニューヨーク、JFケネディ空港へ到着、その後、歓迎会

ここで今回のプログラムと一緒に取り組み、ホームステイさせていただく家の現地の生徒たちとの対面です。

歓迎のピザもいただきました。



○最初のセッションはまず「リズム・ゲーム」(自己紹介)からです。

Justin によるリトミック・プログラム (J. ダルクローズによるソルフェージュ教育法の一つ) により、リズムに合わせて体の動きを創作し、米日入り乱れての自己紹介の時間ともなりました。なお最後の写真は、演奏されたドレミの並びを椅子取りゲーム方式で表すものでした。



○次のセッションは「弦楽器の紹介」

ニューヨーク・フィルハーモニックのヴァイオリン、ビオラ、コントラバスをそれぞれ担当している3名による、弦楽器講座が開講されました。セッション内は質疑応答形式で進められ、生徒からの質問に「言葉」ではなく「演奏」によって応えるというユニークなものでした。ニューヨークの生徒たちは初めての弦楽器に興味津々でした。本校生は管打楽器の合奏形態なのですが、唯一、コントラバスがあったので、奏者のB. Hinsonのみならず、かつてバーンスタイン時代に第1コントラバス奏者として活躍しこの音楽教育プログラムのマネジャーのJ. Deak氏からも直接のご指導をいただきました。その流れで、本校生の「ふるさと」のメロディパートとコントラバスの生徒が、フレージング等で弦楽器奏者からアドバイスをいただきました。



○次は「管楽器と打楽器の紹介」です。

本校生にとっては、メインの研修の一つです。

同じくニューヨーク・フィルよりフルート、トロンボーン、打楽器の各奏者が「弦楽器の紹介」同様に、質疑応答形式でした。本校生も沢山質問し、休憩時間も英語でプレイヤーに奏法等のアドバイスをいただいていた。



○次の「音に触れよう！」セッションです。

様々な楽器の音色によって、どのようなことを感じとり、その音をどのような表現に使えるかということ、目の前の様々な物体を自由に手にとって音を出しレポートをまとめました。

これも、「音を感じて表現」というリトミック・プログラムのひとつでもあります。



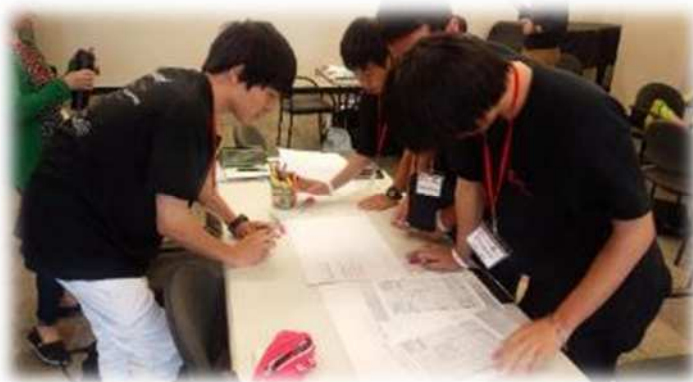
○研修中に、アメリカの生徒との親睦を深めるプログラムとして、タイムズ・スクエアにあるトップ・オブ・ザ・ロック（ロックフェラーセンター内）にてニューヨークを一望できる展望台に昇り、晴天に恵まれたこともあり、360°どこまでも続くような広いニューヨークの町並みに感動しました。



○ニューヨークの広大な眺望を満喫した翌日は「曲を楽しもう！」セッションからのスタートです。

おなじみ、Justin のリトミックからスタートして頭も体も起こし、その後、クラシックの名曲からニューヨークフィル教育プログラム副社長の T. Wiprud 氏の作品の分析にまで、多岐にわたった様々な楽曲を音符のみならず図解されたりと、非常に興味深いワークショップでした。ふたば未来学園高校の音楽の授業で取り組んでいる「音楽の諸要素の知覚と感受」（音楽授業のユニバーサルデザイン化）とほぼ同様の進め方で、また音楽の専門教育で施されている作品解説のレベルのワークショップでした。

このあたりのプログラムになると慣れてきた様子が見えてとれるようになり、臆することなく感じたこと、考えたことを発言できるようになってきました。ニューヨークの子ども達の発表を聞いて、多彩な感性と敏感な反応、そして意欲的な取り組みに大きく影響を受けたことも要因となっているようです。



○この日の後半は、翌日に控えたコンサートのリハーサルを、実際にニューヨークフィルのメンバーが集まって、ニューヨークの子ども達がプログラムでそれぞれ作曲した作品のリハーサルと、本校生の演奏指導をしていただきました。嶋津先生アレンジの「ふるさと」のフィナーレ・バージョンでは、異国の地で極上の響きで奏でられている日本の伝統曲に身震いしました。



○ニューヨーク研修中は昼食場所も色々ご提供いただきました。

メトロポリタン歌劇場前（リンカンセンター脇）、ジュリアード音楽院の前の広場や、セントラルパークでも昼食をとりました。出店で英語で飲料を買うという貴重な経験もできました。こちらでも現地の生徒たちと触れあって、積極的に親睦を深めることができました。



○2016年8月20日(土)、いよいよ今回の一連のプログラムの最終目標として、リンカンセンター・アトリウムでの演奏会です。

The TOMODACHI Suntory Fukushima Mirai Music Program is made possible with support from the TOMODACHI Initiative through a generous gift from **Suntory Holdings Limited**. Continuing recovery efforts from the Great East Japan Earthquake of 2011, musicians of the New York Philharmonic and guest artists perform music composed by students visiting from Fukushima and students from New York City. Reflecting on their hometowns and dreaming of the future, students share the fruits of a week building musical bridges.

Very Young Composers is sponsored, in part, by **The Susan and Elihu Rose Foundation, Inc., Muna and Basem Hishmeb, Mr. and Mrs. Stephen D. Solender, The ASCAP Foundation Irving Caesar Fund, and Mr. and Mrs. A. Stede Mills, Jr.**



**TOMO
DACHI**

SUNTORY

TOMODACHI Suntory Fukushima Mirai Music Program

Jon Deak Conductor and Host
Takafumi Kanno Conductor
Takehito Shimazu Conductor and Host

Musicians of the New York Philharmonic

Quan Ge Violin
Peter Kenate Viola
Blake Hinson Bass
George Curran Trombone
Julietta Curentan* Flute
Justin Hines** Percussion and Lead Teaching Artist

* Guest Artist
** New York Philharmonic Teaching Artist

Saturday, August 20, 2016, 5:00 p.m.

David Rubenstein Atrium at Lincoln Center
61 West 62nd Street, New York City

Suntory is a Japanese corporation with a variety of businesses that have alcoholic and non-alcoholic beverages as its main pillars. We have established The Suntory Tohoku Sun-Sun Project to engage in activities designed to assist the recovery of areas affected by the Great East Japan Earthquake. With a total budget of ¥10.8 billion, these activities are mainly focused on the fishing industry, youth, challenged sports, and culture and sports. We remain committed to carrying out activities that bring us closer to the disaster-affected areas in these four main fields based on our commitment to bringing smiles and hope to these areas like the sun.

The TOMODACHI Initiative is a public-private partnership between the U.S.-Japan Council and the U.S. Embassy in Tokyo. Born out of support for Japan's recovery from the Great East Japan Earthquake, TOMODACHI invests in the next generation of Japanese and American leaders through educational and cultural exchanges as well as leadership programs. We seek to foster a "TOMODACHI Generation" of young American and Japanese leaders who are committed to and engaged in strengthening U.S.-Japan relations, appreciate each other's countries and cultures, and possess the global skills and mindsets needed to contribute to and thrive in a more cooperative, prosperous, and secure world. For more information please visit www.tomodachi.org.

Very Young Composers of the New York Philharmonic
Each season, members of the New York Philharmonic premiere over 100 new works by students 9-18 years old, through a program created by Jon Deak and called Very Young Composers. Teaching artists who are professional composers, high school students will on their way, aspiring middle school students, and elementary students experiencing musical possibilities for the first time -- all are part of a vibrant international creative community. This concert showcases the breadth and depth of music composed through this program, and the way it connects young people across cultures.

Very Young Composers of Fukushima and New York

Opening Remarks:

Theodore Wiprud Vice President, Education, The Sue B. Meroy Choir
Fred Kotogama, Member, U.S.J.C. Board of Directors (2009-2016)
Masaki Tomioka Senior General Manager, CSR, Suntory Holdings

Concert

- | | |
|---------------------------|---|
| Sebastian GONZALEZ | <i>Unity: America and Japan, a Fanfare</i> |
| Joshua POOLE | <i>Crazy Life in the City</i> |
| Miho HARANAKA | <i>Furusato: My Home Country</i> |
| Erika OURA | <i>Theme and Variation I</i> |
| Masataka ISHIZAKI | <i>Variation II</i> |
| Issei ENDO | <i>Variation III</i> |
| | Takafumi Kanno, Conductor |
| | Erika Oura, Miho Haranaka, Flute; Katsumi Tadano, Clarinet; |
| | Mika Naito, Trumpet; Erina Nagahashi, Trombone; |
| | Issei Endo, Euphonium; Hiroaru Akimoto, Bass |
| Henry CREAMER | <i>After You've Gone</i> |
| | Kumpel III, Clarinet; Takeru Saito, Piano |
| Graeme BUEHRER | <i>New York Rhapsody</i> |
| Cassandra STEVENS | <i>Beauty and Magic</i> |
| Austin CELESTIN | <i>Grounded in the Sky</i> |
| Benjamin ARAUJO | <i>Empire State Passacaglia</i> |
| Takehito SHIMAZU | <i>Furusato: My Home Country</i> |

まずはリハーサルからスタートです。

ニューヨークフィルのリハーサル室をお借りして、最後の調整を入念に行いました。



そして、いよいよ出発です。会場に着くと、既に本番の舞台設営が完成していました。本番へ向けての準備です。



現地の子ども達の作品もニューヨークフィルの演奏で沢山披露されています。

そして、いよいよ本校生の出番です。

まず、今回のプログラムを振り返る映像が流され、観客は画面に釘付けになりました。

双葉郡出身の2年次生4人のアレンジをメドレーにした「ふるさと」変奏曲を、本人達が自分の言葉で、ふるさと「双葉」に寄せるイメージをどのようにアレンジに盛り込んだかをメッセージとして披露後、海を越えて本校吹奏楽部生とニューヨークフィルメンバー、そして日本からバークレー音楽院に留学している2名も駆けつけてくれて演奏しました。

所々、ピッチが不安定だったり音がかすれる部分もありましたが、プロの皆さまの援護で異国の地で最後まで吹ききることができました。

フィナーレは嶋津先生が「ふるさと」をお客さんと一緒に歌って締めくくられました。

演奏後のレセプションで沢山の方々からコメントをいただき、どれもがねぎらい、激励とお褒めのお言葉でした。中には双葉町出身で双葉高校卒業の方もいらっしやって、双葉郡の本校生が頑張っている姿に感動されていたのが印象的でした。原発事故でも負けない福島の子の姿のひとつをアピールできたのではないかと思います。





○帰国して2ヶ月後の10月30日（日）、ふたば未来学園高等学校文化祭「双来祭」一般公開にて、ニューヨーク・フィルからいただいたニューヨーク研修のまとめ映像をご覧いただき、現地でも演奏した「ふるさと」変奏曲を1年生も含め全員で演奏披露し、報告会とさせていただきます。

2ヶ月が経過していてもなお、色褪せない魅力を放っておりました。



これまでに福島大学名誉教授の嶋津武仁先生のご指導の下、本校で2月より毎月進めてきた編曲講座の作品として2年生による手作りの編曲作品「ふるさと」を、20日にリンクセンターのアトリウムにて、ニューヨークフィルのメンバーとのアンサンブル共演で披露させていただきました。この研修により、ニューヨークフィルの音楽研修プログラムが、長いオーケストラの歴史の中で脈々と受け継がれてきていることに感銘を受け、また一緒にプログラムを受講したアメリカの小中学生との8日間の交流によって、今後の国際交流の継続の大切さと文化の多様さ、そして共生することの意義についても沢山学ぶことができました。

この機会をいただきましたサントリー・ホールディングス、サントリーホール、米日カウンシルジャパン、ニューヨークフィルハーモニックの皆様方に心より御礼申し上げます。

